2011年度 代表事業①

事業名 10月度第二例会

出航～思いやりと活気あふれるLOMへ～

委員会 国際交流委員会

委員長： 武中　義仁

副委員長： 森　麻貴
副委員長： 福島　清志
幹事： 渡辺　真行

事業趣旨要約

「とうかい号」の主管活動は、企業青年研修を通した地域発展の為に行われた事業です。しかし、会員同士が事業の意義・目的を共有できないまま活動を行っている現実と、個々に芽生えた思いやりに感謝を伝えきれないまま事業を終えてしまった事が問題点として残りました。

そこで、「とうかい号」事業の本質を理解した上で活動することと、活動の上で生まれた会員同士の思いやりと感謝の気持ちを共有することはJC活動において必要であることを発見しました。

この例会を通し、「とうかい号」事業を通しJC活動の魅力を再認識して頂き、事業の意義・目的を理解することの大切さを伝え会員同士が思いやりと感謝の気持ちを共有できるよう努めます。そして、会員の活動意欲の向上、強い結束力に繋がり「思いやりと活気あふれる静岡青年会議所」への飛躍となります。

背景

・「とうかい号」事業の意義、目的の伝達が不十分なため、会員が事業の本質を理解しないまま活動しており、本来の活気ある活動がまだ十分でない。
・「とうかい号」事業に対しバックアップしてくれる会員の思いやりと、事業担当会員の感謝の気持ちがうまく共有されていないため、強い結束力を持った活動がまだ充分でない。

目的

・意義・目的をしっかりと共有する事で今後の活動に意欲をもたらす。
・「とうかい号」事業を通じて得た静岡JCメンバーの感謝、成長を促し思いやりと感謝というお互いの気持ちを理解する事で「利他の心」を養う強い結束力を築く。

効果

・「とうかい号」事業の意義・目的を理解し共有する事で通年事業「とうかい号」への参加意欲向上に繋がる。
・会員同士が事業の意義・目的をしっかりと共有する事で、JC活動の魅力を今以上に気付き事業への参加意欲が向上する。
・会員同士が活動に対する思いやりと感謝の気持ちを共有する事の重要性を認識することで強い結束力を持った活動になる。

事業概要

日時場所：2011年10月26日（水）19時から21時　しずぎんホール　ユーフォニアにて
参加人数：静岡JC会員　（結果、168人）
事業総額：146,190円

例会の流れ・目的

第一部
①「とうかい号」の事業概要をPPで説明。
②一般乗船者と活動に携わったLOMメンバーによるスピーチ。
③団長と東海地区会長のビデオメッセージ。
【第一部を通して】
・歴史ある通年事業「とうかい号」の意義目的を知ることにより、通年事業の意義・目的を理解しJC活動への魅力に気付く。
・本年度の事業の意義目的を知ることにより、本年度事業の意義・目的を理解し改めて共有する。
・静岡JCが事業から得た事を知ることにより、本年度事業から得た成長と感謝から「利他の心」を養う。
・対外LOMから見た静岡JCの活動評価を知ることにより、対外LOMからの評価を知り「利他の心」に気付く。
第二部
①事前アンケート調査結果を発表。
②寸劇による理想的なケースを発表。
【第二部を通して】
・アンケート内容では、会員同士の意思疎通ができているかを確認し、会員同士が事業に対する思いやりと活動に対する感謝の気持ちは共有しているかを知る。その結果、事業や例会参加時には、それに対しる意義・目的や内容を会員同士あまり共有されていなかったことに気付かされて。それに対する対策を寸劇にて表現した。
・より良い活動をするための手法を知ることにより、青年会議所の事業にどのように会員が臨めばより良いのかを学ぶ。例えば、例会出席を会員に依頼するときには、「懇親会などでの場」でただ誘うのではなく「委員会や会議などの場」で参加する意義・目的をしっかり伝えることが理想なケースとして寸劇内で表現した。
エンディング
①活動の奇跡をビデオ上映。
②委員長総評
・これからの活動への出航と題して、事業の本質に触れ意義・目的をしっかりと理解し共有する事で会員の活動意欲を向上させる。そして、会員同士が思いやりと感謝の気持ちを疎通させお互いを理解することで強い結束力を構築することができる。

達成検証

事業目的に達した点：
・現在の静岡青年会議所会員の意識をしっかりと検証出来た事で現状を把握し本例会の必要性を認識してもらえた点。
・手作り感のある寸劇を行った事で事業に対して会員同士が理解し共有すべきもを感じてもらう事が出来た点。
（・青年会議所活動の1つである「とうかい号」事業を通して3信条に触れ我々の活動の魅力を再認識して頂こうと、パワーポイントを使用し説明したが短い時間での説明ではうまく伝わらなかった。）

所見

事業に対する所見
「とうかい号」一般乗船者の下船後の成長体験や、輩出企業様から頂いた「とうかい号」一般乗船者の下船後の研修効果をお伝えする事で、ＪＣ活動の成果という側面からの魅力を感じて頂けました。第二部で伝えた現在の会員の意識調査では、多くのメンバーの協力のもとで検証し、危機感を実感する事が出来ました。しかしこの例会が、単なる対内的なメンバーの活動意欲向上で終わらないよう例会を企画設営したつもりですが、我々の「思いやりと感謝」の輪がこのまちの方々に繋がって行く事を最大限に伝えられなかったように思い、反省すべき部分であると感じました。本例会の目的である「会員同士の思いやりと感謝の気持ちの共有と、事業の意義・目的の共有」が、今後の活動において会員一人ひとりが実践すれば、青野理事長の掲げた「お互い様の精神」となり、第３８回ＪＣ青年の船「とうかい号」主管は会員の自己研鑽と成長に繋がる活動となると思います。
年間活動に対する所見
「とうかい号」主管を行った事で一丸となる為の要素は明確になったと確信しています。事業の意義・目的を分かりやすく発信する事が会員の活動を主体的にします。また、事業を通して育まれた思いやりと感謝の気持ちをしっかりと伝える事が会員同士の信頼関係を強固にします。主体的に活動する会員同士が信頼関係で繋がり、これこそが本年度当委員会が目的として掲げた、会員が一丸となり「思いやりと活気溢れるＬＯＭ」の姿です。この思いを担当例会である10月度第二例会でも強く発信しました。所属会員同士で繋がっている思いやりと感謝の連鎖はこのまちの方々にも届いたと思います。

担当委員長Q&A

01 JCがとうかい号に携わる意義は何であるかお教えください。

公益社団法人となった日本青年会議所の大きな対外事業の一つとして「とうかい号」事業があります。とうかい号事業は、青年会議所の活動を対外に発信することの出来る最大の場所として取り上げられています。また、とうかい号事業を通して対外へのＰＲや青年育成事業だけではなく、対内、すなわち参加したメンバーや事業に携わった全メンバーの成長や絆が生まれることも、もう一つの意義です。

02 静岡LOMがとうかい号主管を担うことで静岡LOMらしい事業の進め方など特にございましたか。ございましたらその特徴や注意した点をお聞かせください。

静岡ＬＯＭらしい事業の進め方としては、２０１１年度の所信にも掲げられている通り「利他の心」すなわち相手を思いやりお互い様の精神で事業を進めたことが挙げられます。

03 理事長所信に「利他の心」とありますが、この事業を通して特に何をされて「利他の心」を得ることができましたか。

活動を通して、動員や乗船者募集などの、特に多くの人を必要とする場面で、「利他の心」、お互い様の心や助け合いの心が発揮されたと思います。

04 とうかい号事務局主管を担い委員会メンバーの意識はどのように変わっていきましたか？

とにかくこの事業を通して委員会メンバー全員が「ＪＣ大好き」になりました。その結果、当時の委員会メンバー全員が次の年に委員会スタッフとして活躍してくれました。委員会が人を育て、活動意欲を醸成させるのではなく、全てのＪＣの事業・活動そのものがメンバーを育ててくれるのだと確信しました。

05 とうかい号の経験の共有を次年度以降に引き継ぐことに当たって、工夫などありましたらお教えください。

とうかい号事業で得た経験、「他人を思いやり、感謝する気持ち」を他のメンバーや次に行われる事業・例会に引き継いでいくことを目的に、「感謝の気持ちを表し、互いをねぎらい、応援していくこと」が大切だと考えました。その為には他委員会が担っている事業の意義・目的を理解する事の重要性を引き継ぎたく、事業・例会後に「静岡ＪＣのエール」というものを行いました。「静岡ＪＣのエール」とは、事業例会後に歌われていた「若い我等」の後に行われ、「ＪＣ三信条」を全員で大きな声で読み上げ、互いにエールを送ったものです。

06 効果の検証にあたって、アンケートの内容を見て委員長自身どんなことに気付きましたか。また、それをどのように反映しましたか。

アンケートでメンバーの事業・例会等の活動に対する意識調査を行い、その結果、多くのメンバーが、その事業や例会の目的がよくわからない状況で出席していることに気付きました。そこで、動員が必要な時や事業・例会出席の呼びかけをするときは、メンバー一人一人に、参加する目的や内容を丁寧に伝えました。

07 事業の手法には多くの種類があります。その中で、寸劇を選んだ理由、また、寸劇を選び事業の目的を効果的に達成できましたか。

ＪＣ活動の意義、すなわちなぜ参加するのかという目的や内容を共有するために、座学ではない、人が体を動かし、人と人とが想いを伝えあうことを体で表現しました。その基本姿勢として、委員会メンバーの背中でＬＯＭメンバー全員に伝えました。その結果、寸劇では委員会メンバー全員が壇上に上がり、「意義目的を共有する事業」の大切さを効果的に伝えることができました。

08 手法で選んだ寸劇で特に注意した点やこだわった点はどこですか。

「意義目的を共有する事業」の大切さをメンバーにわかってもらい、利他の心で活動に参加したくなるＬＯＭづくりをめざし、体を張った寸劇を選びました。その中でまず、全員で台詞を覚え、練習を何度も行いました。寸劇の内容も、ＪＣ活動を行う中で実際に起こることを取り上げました。そうすることで、嘘や大きな理想だけでは終わらない、現実的な内容となります。また、より親近感がわくように登場人物は実際のメンバーとして配役しました。寸劇では、特に動員や参加を依頼する場面を取り上げ、例えば、悪い動員の依頼方法を見せ、次に理想の動員の依頼方法について演じました。意義・目的をしっかりと共有することがＪＣ活動や事業・例会への参加意欲をもたらすことを寸劇で表現しました。

09 事務局主管の中で、他委員会との連携などで工夫した点をお聞かせください。

他委員会との連携では特に「担当委員会だから」という考えではなく、全ての年間事業が「全員参加して作り上げる事業だから」という想いを持つように工夫してきました。他の苦労している委員会やメンバーの背中を見て、時には、その人たちの苦労を例に挙げながら、自分たちも頑張らなければというお互い様の精神を呼び起こしながら活動してきました。

10 一般乗船の方々とのコミュニケーションで気を使った点をお聞かせください。（乗船時のやる気を高める点など）

こちら側から気を使った点は特にありませんでした。一般乗船者が乗船前からどんどんテンションが上がっていき、一般乗船者のほうから我々ＪＣメンバーに積極的にコミュニケーションを取ってくれました。　乗船時はメンバー全員が疲労困憊でしたが、一般乗船者の皆さんのおかげで特に気を使うこともなく逆に元気をもらって活動できました。「とうかい号」という研修事業のポテンシャルの高さを肌で感じました。

取材全体としてのまとめ・感想

今回のとうかい号事業の目的には対外的な企業青年研修事業やＰＲ活動だけではなく、対内的な活動としてメンバーの研修や交流なども挙げられていました。とうかい号は東海地区の事業ですが、静岡ＪＣが事務局主管を担うことを大きな機会と捉え、とうかい号事業だけではなく、すべてのＪＣ活動に対する意義・目的を共有することで、今後の活動意欲を醸成させることも目的でした。その結果、「利他の心」すなわち思いやりと感謝の心、お互い様の想いがメンバー内に浸透し、活動参加意欲が向上したようです。

取材前と後での特に気付いた点

取材前では「とうかい号」事業の活動報告や体験談の共有、とうかい号で経験した感謝の気持ちを伝え「利他の心」を養うことを目的とした例会と思っていました。実際は、とうかい号事業事務局主管という大きな事業に携わる中で、「なぜこの活動をしているのか。」という意義・目的意識を理解させた上で、「とうかい号」事業への参加・協力を全会員で行い、それをきっかけにすべての事業・例会、ＪＣ活動への参加意欲を醸成させることを目的として事業・例会が行われました。　この年は「利他の心」、思いやりの心がメンバー内に浸透し、多くのメンバーが意欲的にＪＣ活動に参加し、委員会内やメンバー内で結束力が築かれました。